

令和5年7月21日

## 令和5年度 行政サービス評価委員会 議事要旨

(企画政策課)

■日時：令和5年7月21日（金） 10：00～12：00

■場所：市庁舎 西館5階 大会議室

### ■委員の構成

氏名	役職等	備考
岸本 道明	静岡大学 未来社会デザイン機構・ 地域創造教育センター 客員教授	委員長
松永 由弥子	静岡産業大学 教職センター長 スポーツ科学部 教授	欠席
村松 淳旨	公認会計士	
青島 以津子	藤枝商工会議所 女性会長	代理：山本和子
内山 大地	藤枝青年会議所 理事長	
朝比奈 孝幸	中部電力パワーグリッド株式会社 藤枝営業所長	
山田 悟	大井川農業協同組合 藤枝統括支店長兼青島支店長	
河合 雄介	志太地区労働者福祉協議会 会長	
谷口 ジョイ	静岡理工科大学 情報学部 准教授	欠席
栗田 隆	企業組合岡部宿かしばや 代表理事	

### ■市の出席者

河野副市長

企画創生部長、スポーツ文化観光部長、都市建設部長、企画政策課長  
各部調整監（総務課長、財政課長、協働政策課長、観光交流政策課長、  
都市政策課長、福祉政策課長、産業政策課長、環境政策課長、教育政策課長、  
病院総務課長）

街道・文化課長、文化財課長、スポーツ振興課長、サッカーのまち推進課長、  
中山間地域活性化推進課長、旧市街地活性化推進室長、中心市街地活性化推進課長

## 1 審議事項

- ① 総合計画の「基本目標5：魅力と活力、持続力ある地域がつながる藤枝づくり」に体系づける施策
- ② 第6次総合計画における成果指標の進捗状況
- ③ 第2期ふじえだ健康都市創生総合戦略におけるK P Iの進捗状況
- ④ 地方創生事業（全100事業）

## 2 総合評価

- ・「人が集まる」ことが中心となる当該分野では未だにコロナの影響があり、未達の指標が多々あるが、脱コロナを目指した各部局による創意工夫のある取組は評価できる。
- ・観光交流施策については、市民に様々な手段での情報提供を行って欲しい。

## 3 意見の概要

### 【総合計画「基本目標5」（観光施策）】

- 大河ドラマにより全国的な家康ブームの中、田中城をはじめとして、家康ゆかりの史跡や史実に基づいた食などの独自のレガシーを効果的に売り出し、一過性ではない取り組みとして欲しい。
- 藤枝MYFCのJ2昇格により、サッカーに興味がない方の関心も高まっている。子どもたちの夢をつなぐためにも、100周年を契機にさらにJ1へステップアップできる行政としての継続した支援をお願いしたい。
- インバウンドが増加していると報道があるが、まだ市内には流れがきていない。インバウンドも体験型に変わってきていることから、陶芸村構想と連動した取組や農体験などを組み合わせた施策の展開を望む。

### 【総合計画、総合戦略、地方創生事業】

- コロナ禍で児童がマスクをしていた期間が長く、給食時に向かい合って食べる事に抵抗があると聞いた。ぜひ食事が楽しいと思えるような取組をお願いしたい。
- 農地の集積化による企業経営体の参入促進については採算が悪化し、撤退する事例も多数あるため、慎重に進めてもらうとともに、担い手の育成支援にも注力いただきたい。
- 生活のあらゆる面で、ITやデジタルの活用が急速に進んでいる一方で、子どもたちの理工系離れが進んでいるとの話もあるため、「高校生大学生による小・中学生創造力育成事業」など、子どもたちが科学への興味・関心を持つような取組の継続をお願いしたい。

## 4 質疑・意見

### ○総合計画「基本目標5」（観光施策）について

(朝比奈委員) NHK 大河ドラマ「どうする家康」に関連したイベントは、全国的にも話題になっている。新型コロナも5類に移行したこともあり、家康関連事業は人を集めるいい機会なので一過性にならない取組をお願いしたい。

今年は「藤枝大祭り」、「朝比奈大龍勢」が開催される他、家康関連事業では新たな集客事業を検討しているとのことだが、具体的な施策について教えて欲しい。

(観光交流政策課) 市内にも田中城をはじめとした家康ゆかりの歴史資源があり、家康関連マップを今年度作成し、市内各所に配布した。また、田中城内に「家康鷹狩り記念館」のオープンや郷土博物館では家康特別展の開催、11月には蓮華寺池公園で鷹狩りのイベントを予定するなど様々な催事で盛り上げていきたい。家康ゆかりの史跡や史実に基づいた食などの独自のレガシーを活用し、効果的に観光施策に取り組んでいく。

(河合委員) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進は働き世代にとって良い取組と考えている。

推進するための具体的な施策があれば教えて欲しい。

また、どのようにニーズを把握していく予定か。

(スポーツ振興課) 民間企業との連携により、デジタルを活用した分散型のイベントや運動の検討を進めている。

また、継続的に実施している事業 (Sports in life) もアンケートの実施により体験者の声を拾いながら、事業の拡充やリニューアルを行い、より参加しやすい環境整備に努めている。

(山本委員) 来年サッカーのまち100周年・市制70周年を迎えるとのことだが、具体的なPR方法、特別な事業等計画している内容を教えて欲しい。

(サッカーのまち推進課) 両周年事業は令和6年1月1日から12月31日の暦年で考えている。1月1日の70日前からシティドレッシングを行い、気運の醸成・市民への周知を図る。

サッカーのまち100周年事業については、来年1月下旬に藤枝総合運動公園サッカー場のバックスタンド改修工事の落成を兼ねた記念式典の開催を予定。また、その他記念試合や大会の開

催を検討している。

(河合委員) 藤枝 MYFC の J1 昇格に向けてという言葉が資料内にあるが、環境面の整備含め、どのような内容か。

(サッカーのまち推進課) 6月30日に藤枝 MYFC が J1 ライセンス取得に向けた申請手続きを行った。様々な審査項目があるが、一番は施設的な要件クリアのハードルが高い。現在 J2 仕様ということで1万人の収容にむけた工事を行っているが、J1 では1万5千人となり、スタジアムの更なる改修が必要。

また、クラブの絡みとなるが、MYFC は現在焼津市田尻に人工芝の練習場を確保しているが、J1 ライセンス取得のためには天然芝か天然芝と人工芝のハイブリットの練習場の確保が必要となる。

(岸本委員長) 観光と一概に言っても、自然であったり、景観、歴史、文化、人の営み等、範囲が広い。全庁的な横の連携が必要となる中、街道・文化課やスポーツ振興課など一緒に取り組んでいることは評価したい。

「旅+お手伝い」が2件のマッチングが実現したとのことだが、どのような内容か。

(観光交流政策課) おてつたびは3日から2週間ほどの宿泊が基本の事業。5月のお茶の時期に瀬戸ノ谷の農家に東京の20代の男性と大阪から30代の男性の2名応募。お手伝いの内容としては茶袋の搬入や茶葉の機械への投入など。農家も高齢化が進み、重労働が大変なことからも手伝ってもらえて非常に助かったという話を聞いている。もう1件は10月に大阪の40代の男性が別の瀬戸ノ谷の農家に応募。お手伝いの内容としては茶園の草刈りやレタスの植え付けを実施。

必ずしも農家だけに限った事業でなく、ホテル事業や酒蔵等様々な業種で活用可能なため、今後はもっと範囲を広げたい。また、おてつたびと農家民泊の体験との違いは、おてつたびは最低賃金以上の時給が支払われること。ただの体験では生じない労働者としての責任感が生じ、参加者も意欲が上がるし、農家も生産性が上がるため、Win-Win な関係が築かれると考えている。

(岸本委員長) 非常にいいサービスだと思う。他の職種でも広がれば、藤枝を

知ってもらおうきっかけとなる。活用がすすむよう PR を進めて欲しい。

(山田委員) 中山間地域では人手不足が深刻である。振興施策として中山間地域に整備される道の駅に期待している。

(岸本委員長) 昨今ワーケーションが話題となっている。藤枝型ワーケーションはどのようなものをイメージしているか。

(観光交流政策課) 本市では「ほどよく都会、ほどよく田舎」の環境を利用して、駅周辺のワークスペースを利用する都市型と、大久保キャンプ場を利用した自然に触れるワーケーションのどちらもできる環境が整っているものが、藤枝型のワーケーションとして定義づけられたら。

(岸本委員長) インバウンドもコロナの影響でストップしていたが、アフターコロナとなり首都圏を中心に外国人が増えてきている。インバウンドをとらえるには、的確な情報提供をしていく必要がある。その考えを教えて欲しい。

また、外国人の受入れ態勢として、おもてなしコンシェルジュの状況はいかがか。

(観光交流政策課) まだ本市には（コロナ以前に比べ）外国人が戻りきっていない現状。玉露の里などのバスツアーでの団体利用が多いが、滞在時間は短時間。

コロナ禍を経て旅行形態は団体から個人にシフトしており、旅先でしかできない体験を求めている傾向がある。長期間滞在してもらえるよう、お茶の体験観光できるような施策を検討している。観光庁のインバウンド向けの補助も活用していく。

おもてなしコンシェルジュは現在観光協会に6名雇用しており、毎日16時～20時半の間、一人勤務している。受付箇所はホテルオーレ内に設けている。また、空港からのアクセスバスが訪れるタイミングでお出迎えをしており、利用者からの評判もいいと聞いている。言語は英語と中国語。

(栗田委員) 美濃焼の産地の岐阜県多治見市では外国人が1か月くらい滞在して芸術を体験するという話もある。インバウンドも体験型にシフトしていることから、是非陶芸村構想では地元の農業体験を組み合わせた施策の展開をして欲しい。

(中山間地域活性化推進課)

陶芸村構想は、瀬戸谷温泉ゆらくを拠点に、新陶芸センターと道の駅を令和7年度の開業を目指して進めている。新陶芸センターの特徴として、プロのアーティストを招聘し、創作活動をしていただくアーティスト・イン・レジデンスを計画している。開業後の本格実施を見据えた試行事業として、今年北欧から芸術家を招聘し、地域と交流を図ることを計画している。事業が動き出したばかりのため、これからオープンに向けて準備を進めていく。

(河野副市長)

委員の皆様より観光交流についてご意見をいただきありがとうございます。交流人口の拡大は重要。

今年藤枝 MYFC が J2 に昇格し、静岡三国決戦として先日ジュビロ磐田戦が総合運動公園で開催されたが、グラウンドがあれだけ満杯になるのを初めて見た。(開催にあたり)多くの課題が顕在化する中、これだけ多くの人が集まる中、人の流れをいかに市内に誘導するか検討が必要と考え、関係団体を交えフットボールツーリズム検討会を設立した。

インバウンドについても朝比奈地区、玉露の里や朝比奈活性化施設たまゆら等を使って地域活性化計画を練っていく。

ツーリズムとして自転車も増えてきているので、新たな策を練ってしっかりやっていく。

(岸本委員長)

岡部宿大旅籠柏屋は日本文化遺産の拠点として認定され、静岡から藤枝に至る東海道筋の拠点として利用性が高まっている。可能なら点だけでなく、線から面へと広がる取組を期待したい。東京からの学生と街を歩いた際に、岡部側の入り口は無電柱化されている。川越のようだという意見もあったことから、遠大な話だが、そのような整備がなされるとありがたいが如何か。

(街道・文化課長)

柏屋は令和2年に日本遺産に認定されたその構成文化財の一つ。日本遺産については、日本の文化・伝統を語るストーリーを認定する制度。地域に点在する様々な文化資源を点と点を結び、最終的に面とするストーリーになっている。

街道沿いを繋ぐ体験施策を増やし、点を線で繋いでいきたい。無電柱化やまちなみの再編については、令和6年に景観形成重点地区指定に向けて計画を進んでおり、この動向を見ながら進

めていきたい。

また、藤枝宿についても、民間と連携して西の玄関口としてお茶文化の発信拠点の整備を推進している。

(岸本委員長) 藤枝には地域資源がたくさんある。今川文化の発祥の地でもあるのでそちらも活用して欲しい。

(観光交流政策課) 大河ドラマを契機に歴史文化が注目を集めている。本市につきましても歴史資源の活用による対応機会の創出にまたとないチャンスと考え、今年度新たな観光のプロモーションとして御城印を朝比奈龍勢・昆虫館にて販売を開始した。また、今川の歴史がある朝日山城や花倉城も御城印を販売できるよう進めていく。

朝日山城、花倉城、朝比奈城の3城はハイキングコースにもなっているので、デジタルスタンプラリーを活用した3城をめぐる城攻め企画(仮)なども考えていきたい。

(朝比奈委員) 食は有効な集客策であると思う。藤枝といえばコレというものを作ってほしい。

(山本委員) 藤の瀬会館の釜めしや朝ラー、地酒、野菜など集まりつつ、何か目玉になる商品があると良い。また駅からシャトルバスを出すなど具体的な誘導策は？

(中山間地域活性化推進課) 陶芸センターが道の駅内にあるため、「陶芸×○○」のような掛け合わせた取組が考えられる。例えば陶芸×茶、陶芸×ラーメンなど。ぜひ目玉商品の開発も検討していきたい。

(岸本委員長) 静岡市はオクシズという名称を付けてブランディングをしている。藤枝もそういったものがあるといいが。

中山間の交流人口は各地で差異あるか。

(中山間地域活性化推進課) 交流人口は大久保キャンプ場や、瀬戸谷温泉ゆらく等の施設が多い瀬戸谷が多い。葉梨地区・朝比奈地区に関しては横ばいの状況。

先ほど副市長からも話があったが、朝比奈地区も瀬戸谷地区に並ぶよう活性化策を検討していく。

(朝比奈委員) 地方では年々転出超過数が増加している。県外からの転入者数を増やすには子育て世代への働きかけが必要。魅力ある街づくりや、市街地での集客、人が活発に交流できる街づくりの推進をお願いしたい。

- (企画政策課) コロナの際に地方への動きが企業で加速した。大手企業では働き方も変わり、地方では大きなチャンスとなる中、藤枝も東京まで約1時間でいける強みや、中山間地域の豊かな環境があることから積極的に誘導をしようと考えている。  
若い世代が移住するにはしっかりとした稼げる仕事も併せて作っていかねばいけないと考えている。首都圏企業との連携で地域に新しいビジネスを作っていく。  
更に、子育て世帯は教育も重要視していることから、あわせて教育環境整備も進め、仕事もでき、子供の教育もしっかり成り立つ職住近接の環境づくりを進めていく。
- (内山委員) 定住人口の増加ということで、空き家や空き地活用に藤枝市は積極的に取り組んでくれている。今後も継続的にやってほしい。  
また、戦略的な土地利用について。藤枝市は工場・物流など進出したい企業からの引き合いが強い。是非新規産業地開発地区の適用の検討を前向きに検討して欲しい。
- (都市政策課) 空き家については、今年度より組織した住まい戦略課で積極的に民間と連携して取り組んでいる。  
土地利用につきましては、どうしても市街化調整区域は都市計画法による縛りもあり、企業の誘致等も難しいが、そういったところも勘案しながらうまく誘導していけるよう検討していきたい。
- (岸本委員長) LOVE LOCAL FUJIEDA とは？
- (中心市街地活性化推進課) 駅周辺広場や、道路空間のイベント等の催し物やイルミネーション等の各事業を総称した名称となっている。
- (栗田委員) 景観形成重点地区の岡部地区のメンバーとして参画させてもらっているが、地域の意見、考えを取り入れていただきありがたい。実現的なものをどう考えているか教えて欲しい。  
また、花と緑の関係だが公園の樹木の剪定が前よりサイクルが遅くなっている気がする。公園の水車も壊れたままではもったいないのでそういったことも含めた全体で景観を形成してほしい。
- (都市政策課) 景観形成は蓮華寺、藤枝宿、岡部宿の3地区で検討。地元の皆様と話し合いながら作り上げていきたい。公園の整備も定期的に行っている。水車につきましても担当課に確認をする。

## ○総合計画、創生総合戦略、地方創生事業について

(朝比奈委員) 総合計画の成果指標 No122 について。コロナ禍でこどももマスクをしている期間が長く、顔出しに抵抗がある。食事が楽しいと思えるような取り組みをお願いしたい。また、夏休みになるとこどもへの食事支援を希望する家庭が多いと聞いた。何かそういった家庭への支援施策があれば教えて欲しい。

市では窓口混雑の解消にデジタル技術を活用し利用効率を図っているということでも有効な施策と考えるが、昨今こどもが理工系から離れているとも聞いている。科学などへの興味関心を引く社会づくりをお願いしたい。

(教育政策課) 学校給食の関係。コロナ禍では前を向いて黙食となっていた。5類に移行して、学校現場もどのように給食時間を過ごすか現場も苦勞している。楽しく食事をするために食育という教育を通じて、将来にわたって食が楽しい環境を作っていきたい。

貧困や食事支援に関しては、こども食堂への支援と PR を行っていく。

科学教育は重要視しており、第1期教育基本計画の中でも記載させていただき、現段階においても JAXA と協力したコズミックカレッジの開催や、様々な機関と連携し、科学教室を開催している。コロナ禍も明け、たくさんの方に参加いただいている。教育機関と連携しながら科学の理解を広げる取組を継続していきたい。

(村松委員) 転入減っている。近隣市町との比較や施策の IT を活かした発信などどのように行っているか。

(企画政策課) 島田・焼津市と比較すると人口規模に同じような転出者数の状況。都市間競争で人口を増やすのも大事だし、広域で魅力ある都市づくりをするのも重要。

子育て世代については経済基盤のある仕事、教育環境、子育て環境、住まいの環境を整える必要があるが、本市の課題は地価の高さ。若い世代が住むのに中々ハードルが高く、六合や西焼津のアパートなどに流出が進んでいる。

対策として、空き家活用や優良田園住宅などの施策、金銭的な支援策を官民連携により進めている。また、若い世代へのプロモーション策として昨年度は TikTok を活用した PR や、首都圏

にいる学生が、市内の企業を知る手段としてC' mon Wakamon というUターン・地元就職応援サイトをつくり、常に市内の企業の情報を伝える環境をつくり、進めている。

(山本委員) 駅前が無電柱化。歩きたくなるまちに向けて具体的なイベントは？集客策はいかがか？

(中心市街地活性化推進課) 無電柱化計画の連絡会議がスタートした。工事着手までは数年時間がかかるが、県も令和7年度の着手を目標としている。歩道も広がるので、そこを活用したイベントを計画していく。また、現状道路空間を活用したイベント等を行っているが、今後は駅周辺の公園も活用したイベントも検討していく。

(山田委員) 農業系の指標については目標値について概ね達成されており、順調に推移していると感じる。しかし、農業については高齢化、や担い手不足、資材高騰が響き、生産規模の縮小や離農も多い。また、農地の不耕作や耕作放棄も非常に深刻化している。農業を取り組むにあたって新規就農者は耕作面積が障壁となっていたが、ゼロから農業エントリー制度のおかげで就農者も増えている。また、担い手支援についても、年々支援策により経営規模については結果になって表れていると感じる。藤枝市では地域計画の中で農地集積化を進めている。作業効率上がるよう取り組んでいただいているが、今後の考えを教えてください。

(産業政策課) あわせてスマート農業についても今後の考えを教えてください。JAと連携しながら担い手の育成支援、農地集積化、新規就農者育成に努めていく。

スマート農業について、次世代農業設備も今年度については児童草刈りロボット等導入実績あり。今後も農業効率化に資する支援策を講じていきたい。

(朝比奈委員) 交通事故対策について。事故の状況にもよるが、例えば歩道がない、生活道路になっていて抜け道になっていて交通事故が発生しているなど、そういう状況がある際にどう改善を考えているか。

また、7月1日より電動キックボードが公道で走れるようになり、条件によっては歩道も走れるとのこと。歩道上で歩行者、

自転車、電動キックボードの三者が行き交う可能性があるため、事故のリスクが高まる。対策を検討しているものがあれば教えて欲しい。

(都市政策課) 道路環境のハード整備について、危険個所について警察・町内会・道路管理者と合同点検を実施し、整備計画を策定している。今年度は7路線について通学路の整備を検討している。

(協働政策課) 電動キックボードについては、チラシの配布やHPで安全利用を促していく。交通事故対策は交通安全対策協議会の中で違反状況を鑑み、関係機関と連動して対策を講じていく

## 5 委員長講評

「人が集まる」ことが中心となる当該分野では未だにコロナの影響があり、未達の指標が多々あるが、脱コロナを目指した各部局による創意工夫のある取組は評価できる。観光交流施策については、市民に様々な手段での情報提供を行って欲しい。

## 6 河野副市長

委員の皆様からいただいた意見につきましては、人口減少社会に向けた交流人口、観光政策、中山間地域の様々な問題に対して本日回答した通り、全てにおいて前向きに検討し、来年度に反映させていきたい。